

竹田陽一の経営随筆集

2022年4月19日 第8号



良い本・悪い本・普通の本 その4

7. 実態調査をしてない

悪い本の7番目は、著者自身の考えで「実態調査」を全くしないで、まとめているものになります。

経営の「やり方」については、これ迄多くの人が講演や本で説明しているの、経営のやり方を集めたらとても多くの数になるでしょう。しかしその中には、多くの人が同じような文章を書いているもの、**「なぜそうなるのか」**、根拠を確かめずに書いているものが少なからずあります。

このような事情から、先に出版された本と同じような題名か、同じ分野で「後から出版する人」は時間的に余裕があるのですから、その中の大事どころのいくつかについては「自分の手で実態調査」をし、内容を確かめるべきでしょう。でないと、本を出した意味がなくなります。では私が実行した、実態調査の事例をいくつか紹介しましょう。

1つ目は、小さな会社の人数です。

本の題名の中には、「小さな会社の何々」というのが少なからずあります。私は仕事柄、このような題名の本は何冊も買って読みました。ところが「小さな会社の何々」と、本の題名には書かれているも

の、説明されている内容は、従業員が300人も500人もいないのでは、と思われる本が何冊もありました。

そこで何年か前に、中小企業の社長と税理士を合わせて400人の人に、「小さな会社とは、従業員が何人くらいいる会社になるでしょうか」というアンケートをとりました。

その結果、平均は「27人」でした。つまり中小企業の社長や税理士が考えている、「小さな会社とは」30人以下になるのです。小さな会社を「従業員30人以下」の会社にすると「社長の役目」がはっきりするので、文章に「ブレ」がなくなるので、応用がしやすくなります。

そのあとドラッカーの本を調べてみたら、小さな会社とは「300人～500人規模」になっていました。つまり同じ言葉であっても、「ひとけた」も違っているのです。これでは読者がひどく混乱するはずで、ちなみに個人企業まで入れると、従業員30人迄が94%も占めているので、30人以下の「社長専用の本」がもっと必要でしょう。しかし実際を見ると、30人以下の社長を対象にした本で、内容の良い本は滅多にありません。

以下、次号に続く。

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>